

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生社会について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。今回は、世界で活躍したいと願う若者へのメッセージをいただきました。



筆者：羽賀 友信さん
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
新潟 NGO ネットワーク顧問
JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
長岡市教育委員、JICA 専門家
※当事業団アドバイザー

世界で活躍するために 若者へのメッセージ

私の若い頃と現代で、大きく変化しているのは経済状況です。戦後35年間はGDPが17倍に成長したといわれていますが、その後の30数年間は2倍にしかありません。国際化とグローバル化が混同して使われることが多いですが、国際化とは国と国との関係を表す外交用語からきています。グローバル化はIT環境の進展により、個人が国境を越えてネット化していることを表します。この大きな2つの視点を踏まえて、若者が海外で活躍するときどのような視点やスキルが必要なのか述べてみたいと思います。

まずは専門性が必要となります。加えて語学力が当然求められますが、国際言語としての英語をベースとして多言語能力が求められます。異文化理解において多様性への対応が求められていましたが、近頃は多元性に移項しています。これはキリスト教圏の文明を中心とした世界が、イスラム教圏、アジアの多神教圏など多元な価値観で動いているからです。自分の文化の物差しから世界を見るのではなく、多文化の視点で見るのが求められています。また溢れている情報の中から、選択し活用するメディアリテラシーが必須能力となります。

もう一つの大切な能力として、クリティカルシンキングも必須になります。物事を鵜呑みにするのではなく、批判的に見て、多様な視点で考える能力のことです。とかく日本人は人を性善説で見がちですが、これは治安の良い日本で通用する価値観です。むしろ性悪説で見ることにより、本質的なことが見えてくると思います。

その他にコミュニケーション力が必要になりますが、これは大きく分けるとファシリテーション力とプレゼンテーション力になります。ファシリテーションは、多様な視点を引き出す技術のことです。それにより相手を見極め、分かりやすく伝える能力がプレゼンテーション力になります。

また最も日本人が苦手としていることが、宗教の理解です。国の成り立ちと宗教が密接に関わっている国が多く、宗教的な規範や価値観を理解しないと、なかなか相手を理解しにくくなります。

世界を学ぶことは、日本を学ぶことになります。違いを比較することで、当たり前になっていたことが、新しい視点に置き換わりよく理解できるようになります。そのためには、リベラルアーツという教養が大変重要になります。日本の文化では違いを嫌い、異質なものになることを避ける傾向がありますが、違いをストレスとせず、新しい学びのチャンスと捉えて前向きにチャレンジすることも重要です。これは異文化の中でのストレスマネジメントにも通じます。

これらの能力に加えて、好奇心が能力の基本になります。

あなたの企業も一緒に情報発信しませんか？

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協力に関心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

*WEBでも公開しています。(http://www.kumamoto-if.or.jp/)

発行：年4回(4月、7月、10月、1月) 部数：3,000部

配布先：市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、しないの国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内
広告の種類：1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金：1/8のおためしサイズ(1回)5,000円単発

1/4サイズ(1回)20,000円、半年契約(2回)30,000円、年間契約(4回)40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか！